がん診療の充実めざす

◇県がんセンター中央病院◇

最新の放射線治療を視察

党愛知県議団

公明党愛知県議団（小島丈幸団長）は先ごろ、名古屋市千種区の愛知県がんセンター中央病院を訪れ、同病院のがん診療の現状について意見を交わすとともに、最新の放射線治療装置を視察した。

この中で一行は、公明党が「がんに負けない社会」をめざし、「がん対策基本法」の制定や「がん対策推進基本計画」の策定をリードしてきたことを強調。同県においても、がんセンターを中心に11カ所をがん診療連携拠点病院に指定し、「どこに住んでいても安心して、がん治療を受けられる体制が整備された」として、「今後さらに放射線治療や緩和ケアの充実を推進したい」と述べた。

これを受け、同病院の二村雄次・総長らは日々進歩するがん診断、がん治療の現状と今後、放射線治療、緩和ケアの取り組みなどを説明した。

懇談の中で同県議団は放射線治療の普及を妨げている問題点として、放射線治療専門医の不足とともに、放射線物理士などの専門職の不足も問題ではないかと質問。これに対し、同病院側は「放射線治療装置が急速に進歩し、適切な治療を行うには、物理学の高度の知識が必要になってきている。専門医とともに放射線物理士のニーズは、非常に高い」と述べた。

この後、一行はエックス線による断層撮影装置と、放射線治療装置が一体になった「トモセラピー」と呼ばれる最新型の高精度放射線治療装置を視察。担当医師らは、従来の放射線装置では画像診断を受けた患者が、別の部屋に移動して放射線治療を受けるため、放射線を照射した際に病巣を外す可能性がある、と指摘。それに対し、断層撮影と放射線治療を同時に行うトモセラピーは狙った患部に正確に放射線を集中照射できる利点がある、と説明した。

視察後、一行は「放射線治療装置の高性能化に対応する医療スタッフの態勢整備が課題だ。国とも連携し、人材の育成を推進したい」と述べた。

最新の放射線治療装置を視察し、医師と意見交換する党愛知県議団